

嘘と優しさ

函館市立椴法華中学校 中原優希 1年

もしもこの世界に「嘘」が存在しなかったら、どんな毎日になるだろうか？

「嘘」の存在しない世界はみんなが正直できれいな世界に思える。嘘をつかなくていい思ったことをそのまま言ってもいい。相手のことを疑ったり、心配したりする必要もない。自由だし楽だ。

しかし、本当にそうだろうか。本音であっても思ったことをそのまま言うだけの世界だったら、僕は毎日が楽しくなくなるだろう。そして、この世界の存在はみんなが安心して生きられる場所ではなくなるだろう。その理由は、人を傷つけてもいい、ということにつながると思うからだ。「嘘が存在しない世界」は「優しさが存在しない世界」につながると、僕は思うのだ。

僕は剣道をやっている。手拭いを巻いてから、面をつける。そのときに髪の毛が引っかかると痛いし、上手にまとめるのも面倒だ。それで、思い切って小学校の時、坊主にした。

面をつける時間が早くなり、稽古に集中できた。自分の選んだことに満足した。

けれど、学校では違った。登校したその日からかうような声がいくつも聞こえた。「こんなことを言われるなんて。やっぱり似合っていないのかな？」と悲しい気持ちになった。

もし相手のことを思いやる気持ちがあればたとえ本音でも、もっと別の言い方があったはずだ。「あっ！髪切ったの～いいじゃん！」や「気合い入れたねえ」そういう一言だけで嬉しくなるのに……。

話し合いをする時もそうだ。相手の意見に少し譲るということも嘘であるなら、どちらも引かずにずっと言い合って、ずっと意見がまとまらないままになりそうだ。

言ったもの勝ち、配慮のない世界…「今日は何を言われるんだろう」とビクビクしながら学校に行く毎日。

僕は「嘘が存在しない世界」よりも「優しさが存在する世界」がいい。例えば本当の気持ちとはちがったとしても、相手を傷つけないように言葉を選べる人間になりたい。

では、どうすれば「優しく」なれるのだろうか。僕がやっている剣道にも「人間形成の道」という理念がある。剣道は強くなることだけが目的ではなく、礼儀や思いやり、自分を鍛える心を育てていくものだ。強いからこそ、自分に厳しいからこそ、優しくなれる。僕はこれからも剣道を続けながら、優しさと勇気を持てる人になりたい。